
地平線

さすらいのかえる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地平線

【Nコード】

N9345B

【作者名】

さすらいのかえる

【あらすじ】

ちよつと変わった女の子の話し。気分転換に夜の散歩をしていたら・・・

何も考えたくない・・・夜が恐い、眠れないよ。

私は気を紛らわせるために、深夜の散歩をする事にした。寂しいので歌いながら歩く。

「おい近所迷惑だぞ」

むう。知らない男の子に声をかけられた・・・あ、でも、結構いい男かも。

年下か？　かわいい系かな。って何考えてるんだ私は・・・。

無視して歩く。もちろん歌い続ける。

男の子が後ろから付いてきた。邪魔だなく。

あ、私の歌声に惚れたのかな？　まず無いだろうけど・・・。

んゝ何か気になる、私は立ち止まると、男の子に話しかけてみた。

「何で付いてくんのよ」

「たまたま同じ方向歩いてるだけ」

「あっそ」

「・・・」

「私の歌に惚れたの？」

「かもしれない」

「じゃあいいや付いてきても」

まあ、そのうち居なくなるだろう。私はまた歌いながら歩き出した。歩いていると歩道橋が見えてきた。渡ってみる事にする。

上まで行った後、手すりに身を乗り出して下を見つっ、ここから落ちたら死ぬかな？

そんな事を考えていたら、いきなり肩を掴まれ引きずり降ろされた。

見ると、さっきの男の子だった。

「まだ付いてきてたの？」

「・・・」

「飛び降りると思っただ？」

「思っただよ」

別に死ぬ気はなかったのだけど、からかう感じで言ってみる。

「なんで止めんのよ」

「生きてて欲しいから」

「別にあんたに関係ないでしょ」

「もう関係あるよ。話をしたし」

う、嬉しいかも。何かくやしい。

「なら責任とってよ」

「は？」

「死ぬの止めたんだから生きてて良かったと思わせろ！」

自分でもむちゃくちゃ言ってるのがわかるけど止められなかった。

「わ！」

急に腕を掴まれた。

「こっちにこい」

私は引きずられるように付いていく。

「どこ行くのよ！」

「良いから黙ってろ」

恐い。もう自棄だ。どこでも連れて行け。

彼はどんどん歩く、道は上り坂、いい加減に疲れてきた。

もう限界だと思った時に彼が歩くのを止めた。着いたらしい。

「着いたの？」

彼は時計見て、ぶつぶつ言っている。ヤバイよこの子。彼はある方向を指差して言った。

「あっち見て、もう少しで時間だから」

「う、うん??」

私は何も起こらないじゃと彼を疑いだそうとした時、地平線が明るくなった。

「ここがこの辺で一番綺麗に見える所だと思う」

私は彼の言葉なんて聞いていなかった。凄く綺麗で無意識に泣いて

いた。

うわ、何感動してるんだろう私。泣くのなんていつ振りだろう。

「生きてると良い事あるだろ？」

彼がハンカチを差し出しながら得意そうに言った。

何かムカつくんですけど・・・私は乱暴にハンカチを受け取る。

「かもね」

彼が凄く嬉しそうに笑った。私もつられて笑顔になる。

生きていて良かったと少しだけ思った。

終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9345b/>

地平線

2010年10月11日03時58分発行